

●スクール・フォー・アフリカにご協力ください！

教育は、子どもたちが貧困から抜け出し、自分自身で未来を切り開く力となります。しかし、小学校に通うことのできない子どもの数は世界で6,300万人。そしてその半数以上の3,400万人がサハラ以南のアフリカの子どもたち。学齢期にある子どもの5人に1人が小学校に通っていません。ユニセフは、このアフリカの子どもたちが学校に通い卒業できること、教員が質の高い授業を行うスキルを身に付け、子どもたちが清潔で安心できる環境で学べる”子どもにやさしい学校”作りを進めています。また、この活動に対する皆様のご支援を「スクール・フォー・アフリカ」として募っています。

●ユニセフが目指す「子どもにやさしい学校」

すべての子どもたちが学校に通うためには、地域の人々や親が教育の大切さを理解し、学校の運営に協力してもらうことが不可欠です。ユニセフでは地域の方々の理解を得ながら「子どもにやさしい学校」作りを進めています。

- ✪校舎の建設や修繕、改修をおこなう
- ✪教科書や学用品、奨学金を提供する
- ✪教員研修を行い、スキルを向上させる
- ✪地域の人々や保護者に教育の大切さを理解してもらう
- ✪学校に男女別のトイレ、手洗い場を設置し、子どもの衛生習慣を身につけてもらう
- ✪運動場や図書館、学校菜園など校内の環境を整備する
- ✪地域の人々に給食当番や学校の修繕など学校の運営に参加してもらう仕組みをつくる
- ✪小学校が無償化・義務化されていない国の政府に働きかける
- ✪学校を中退してしまった子どもに補習授業を行う
- ✪障害のある子どもが通えるように教員研修を行うなど、受け入れ体制を整える



(公財) 日本ユニセフ協会ホームページより

●日本ユニセフ協会「スクール・フォー・アフリカ」に寄せられた募金は、西アフリカの中でも最貧国のひとつといわれる「ブルキナファソ」の「子どもにやさしい学校」作りに活用されています。



視察に訪れた支援学校での歓迎の様子



きれいな教室で授業を受ける支援学校の生徒たち

- 2013年より始まったアフリカの教育環境改善を目的とした「スクール・フォー・アフリカ」募金で、すでにブルキナファソでは小学校11校、中学校5校、就学前教育センター9校（建設・改修中含む）の支援がおこなわれています。
- また今後は、ブルキナファソに限らず、その他の国にも支援を拡げていきたいと願っています。



- 2・3ページにも、ユニセフがブルキナファソにおける教育分野での取り組みを紹介しています。合わせてお読みください。
- また「スクール・フォー・アフリカ」の詳細や募金のお申し込み方法は、日本ユニセフ協会のホームページをご覧ください。

*「スクール・フォー・アフリカ」または下記アドレスで検索ください。

<https://www.unicef.or.jp/sfa/report/>

●ユニセフ海外スタディツアーに参加

西アフリカ「ブルキナファソ」へ行ってきました(その2)

- 全国各地でユニセフへの支援の輪を上げようと活動する地域組織協会を対象に、日本ユニセフ協会が主催するユニセフスタディツアーへ、山口県ユニセフ協会から、事務局の高木が参加しました。
やまくちユニセフ通信夏号（No. 6）に続いて、その様子を報告します。

●拡大するテロと教育

- ・ブルキナファソの識字率は35%と、国民の3分の2の人々は字が読めません。字が読めないと就ける職業は限られ貧困からなかなか抜け出せません。
- ・そのため子どもたちへの教育環境整備はユニセフ活動の重要なテーマのひとつとして取り組まれています。
- ・夏号でも報告の通り、「スクール・フォー・アフリカ」募金も含め、ユニセフは「子どもにやさしく、質の高い学校作り(Quality Child Friendly School: QCFS)」を積極的に進めています。
- ・しかし2015年に始まったテロの拡大が、この教育環境作りに大きな障害となっています。テロは政府機関や警察軍隊など公的施設を対象としたものが多く、公用語であるフランス語を基本に進める学校教育に反対イスラム圏で使われるアラビア語教育を要求する等の理由で、学校へのテロも多発しています。
- ・このため実際にテロにあった学校だけでなく、近隣他校の先生も逃げ出す等でやむなく学校を閉鎖しなければならない状況も発生しており、国内約3,000校の内すでに1,000~1,200校が閉鎖に追い込まれているとのことです。

●緊急時対応シミュレーション(予行演習)の視察

- ・ユニセフではこのような状況の中、QCFSの一環としてテロ集団による襲撃が多いブルキナファソ北東部の学校を中心に、緊急時対応プランの策定や心理的ケアなどによる教員・児童・生徒の支援をおこなっています。
- ・今回訪れたサンマテン県のヤルゴ小学校では、緊急時対応プランに基づくシミュレーション(予行演習)を視察しました。
- ・演習は教室内、野外のそれぞれで、襲撃を受けた場合と襲撃が予見される場合の4つのバージョンがあり、いずれも切迫感と厳しい現実を感じさせるものでした。



教室で授業を受ける子どもたちは、襲撃の知らせとともに、右の写真のように机や椅子の下に。



80人ほどの子どもたちの姿は、ほぼ見えなくなるくらいに。

●ラジオによる教育番組の取り組み

- ・テロによる治安悪化で学校閉鎖が拡がり、学校に通えない子どもが急増しており、大きな問題となっていることから、子どもたちが教育とのかかわりを絶たないようにするため、ユニセフは教育省に対してラジオ教育番組の立ち上げを技術的・財政的に支援しています。
- ・ラジオ教育番組の放送は、2018年12月より開始され、特に学校閉鎖が多数に及ぶサヘル地域に子どもたち約112万人を対象に、読み書き・計算をフランス語に加え、5つの現地語に翻訳・放送しています。
- ・また開始したばかりの取り組みのため、67人の子どもを対象とした効果測定調査もおこなわれているとのことでした。
- ・教育省の収録スタジオ視察中に停電によりレコーディングが中断するハプニングもあり、脆弱なこの国のインフラ環境を感じずにはいられませんでした。



・教育省のスタッフから、ラジオ番組への熱い思いと番組制作手順の説明を受ける。



・ラジオ番組の収録中、突如停電(電気の供給は、国内発電では不足のため、隣接国から輸入)。懐中電灯で原稿チェック。

●地域で進める屋外排泄習慣の撲滅

- ・ブルキナファソでは20%の国民しか適切な衛生設備(トイレ)を使うことができず、農村地域に住む国民の75%が屋外排泄をおこなっています。
- ・屋外排泄は、下痢症状や呼吸器疾患を引き起こす寄生虫や菌の増殖につながり、子どもを中心に健康上大きな被害をもたらすだけでなく、人としての尊厳にも深刻な影響を与える習慣です。
- ・ユニセフでは、屋外排泄を撲滅するため、地域(コミュニティ)自らが公衆衛生の重要性を見出すことを促す手法「コミュニティ主導型総合衛生管理プログラム」を推進しており、多くの地域で成果を上げ始めています。
- ・「屋外排泄撲滅コミュニティ」として国から承認された地域を訪問したところ、コミュニティの村長さん全員が参加のもと、地域住民が数百人集まり、このプログラムの推進担当者が、推進プロセスや成果を説明してくれました。住民全員で取り組み、何百年も続いた屋外排泄の習慣を一年で改めたことへの達成感や地域の結束の強さが伝わってくる視察となりました。



・集会所に集まった村民たち。知事の出席もあり、数百人規模の歓迎を受ける。
・歌や踊りもあり、村のお祭りかとの勘違いしたほどの賑わい。



・地面に広げられた紙には、取り組み前後の地域のトイレ設置状況や、屋外排泄撲滅の意義を地域住民に啓発したプロセス、徹底・継続するために定めた村民全員の守るべき約束事等が表記しており、推進担当者は誇らしげに説明。

～研修を終えて～

- ブルキナファソについて
 - ・もともと貧しい西アフリカ諸国の中でも、さらに周辺国に比べて一人当たりの所得はその半分という最貧国のひとつであり、独立後から続いた政治的混乱や最近頻発化するテロなどで、開発に対する障害は余りにも多い。
 - ・ただそういう状況の中でも、政府は勿論のこと、ユニセフをはじめ、さまざまな国際支援組織やNGO・NPOはこの国の明るい未来を信じて地道な取り組みをおこなっており、それらが成果を上げつつあることを知った。
- ユニセフについて
 - ・ミッションはあくまで「子どもの命と人権を守る」というブレない信念に基づいて、多くのユニセフ職員が活動している姿を見ることができた。
 - ・国連の機関として、政府や地方行政への支援や政策提言をおこなう一方で、支援現場との信頼関係も構築しながら、子どもたちのために活動を続ける実行力のある組織だと改めて感じた。

山口県ユニセフ協会は設立して2年となりました、よちよち歩きで始まった活動でしたが、今年度はパネル展示、イベント出展の他、依頼を受けて出前授業も行いました。今後も活動の幅を広げていきます。ご支援、ご協力よろしくお願いします。



ユニセフコーナー出展・イベント予定

出展・イベント	月・日	時 間	場 所
宇部まつり出展	11月 3日(日)	11:00~16:00	宇部まつり会場(物産展ロード)
パネル展	11月16日(土) 17日(日)	10:00~17:00(日曜日は16:00まで)	防府市アスピラート
柳井まつり出展	11月23日(土)	10:00~15:00	柳井市体育館(パタフライアリーナ)
ラフウォーク	10月27日(日)	9:30~13:30	阿東徳佐
クリスマス会	12月15日(日)	13:30~15:30	コープ(ここと) どうもん店

ハンド・イン・ハンド募金活動

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金とは。。。”手に手をとって”を意味する『ユニセフハンド・イン・ハンド』募金の特色は、事前に登録すれば誰もがユニセフ・ボランティアとして実施出来ることです。1979年の国際児童年に始まり、40年の歴史がある取り組みです。毎年11月~12月をハンド・イン・ハンド募金月間とし、ユニセフを支援くださる全国のみなさまが、街頭やイベントで職場で学校で、またご家庭の中で、ユニセフ募金活動に工夫を凝らして下さっています。

12月の山口県ユニセフ協会による「ハンド・イン・ハンド募金」活動予定は以下の通りです。

ボランティア参加も大歓迎！

地域	月・日	時 間	場 所
柳井市	11月 23日(土)	11:30~12:30	柳井市体育館
山口市	12月 8日(日)	10:00~11:30	コープ(ここと) いずみ店
下関市	12月 7日(土)	10:30~12:30	コープ(ここと) 新下関店
岩国市	12月14日(土)	10:30~12:30	JR岩国駅
宇部市	12月 7日(土)	15:00~17:00	コープ(ここと) 宇部店
萩市	11月30日(土)	10:00~12:00	JAファーマーズマーケット、ふれあいらんど萩
周南市	未定	未定	未定



昨年のハンド・イン・ハンドの様子

賛助会員募集してます！

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によって支援いただく方法です。

現在山口県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。

山口から世界の子どもたちを支えましょう！

種 類	対 象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生(18歳以上)	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。

一般・学生賛助会員は個人名での申し込みに限らせていただきます。

いつでもボランティア大歓迎！！

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろんあなたの好きなことをユニセフ活動にいかしてみませんか？

♪ 絵や文章を書くのが好きな方

♪ 子どもが好きな方

♪ 手作りするのが好きな方

♪ パソコンが得意な方

♪ 学習会の組み立てを一緒に考えてくれる方

などなど



山口県ユニセフ協会

〒753-0083

山口市後河原210番地

TEL083-902-2266

FAX083-928-5416

E-mail: info@unicef-yamaguchi.jp

URL: https://www.unicef-yamaguchi.jp

県協会地図



ボランティア登録、資料請求、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。

また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

受付日 : 月・火・水・木・金

受付時間 : 10:00~16:00

山口県教育会館の裏になります。